



2012年、宝塚大学は創立25周年を迎えました

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます



作：アニメーションコース1年 坂本佳織さん（千葉県 千葉萌陽高校出身）

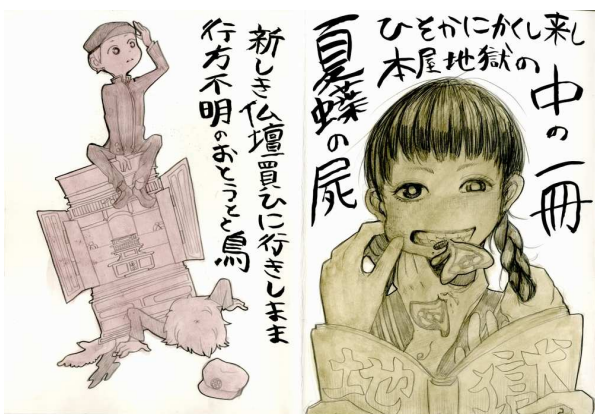
※本作品は、「第5回 秋の造形展」の金賞受賞作品です。

### 「第5回 秋の造形展」金賞作品決定

今年前期の授業内で制作した作品を中心に展示・上映する「第5回 秋の造形展」が、9月16日（日）、17日（月・祝）に宝翔祭と同時開催され、出展作品の中から優秀作品計13点が金賞に選ばれました。

イラストレーションコースはイラスト作品や立体作品、マンガコースは、マンガ作品やキャラクターカットなどが主な対象となりました。アニメーションコースは、完成したアニメ作品だけでなく、絵コンテやプロット、ゲームコースは、ゲームキャラクターのデザインや、3DCGの作品が展示されました。

#### 【金賞授賞作品】（その他の作品は次頁に掲載）



イラストレーションコース4年 榎本美咲さんの作品  
(神奈川県 向上高校出身)



マンガコース3年 松永有未さんの作品  
(茨城県立取手松陽高校出身)



ゲームコース3年 深津友理子さんの作品  
(長野県 さくら国際高校出身)



アニメーションコース3年 長澤班の作品  
長澤美玖さん (千葉県 千葉敬愛高校出身)  
靱山聡美さん (神奈川県 横浜商科大学高校出身)  
村岡菜月さん (東京都立小平高校出身)  
小島沙友里さん (神奈川県 横浜商科大学高校出身)  
久保田和奏さん (山梨県 駿台甲府高校出身)



## 【金賞授賞作品】

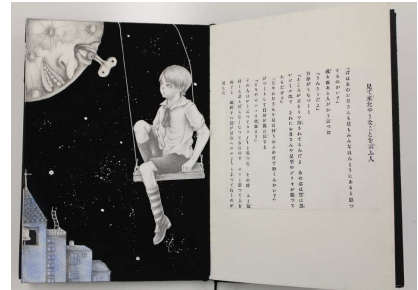
### ■ イラストレーションコース



1年 松澤綾さんの作品  
(石川県立小松高校出身)



2年 藤代実咲さんの作品  
(東京都立晴海総合高校出身)



3年 坂本祐梨さんの作品  
(東京都 国本女子高校出身)

### ■ マンガコース

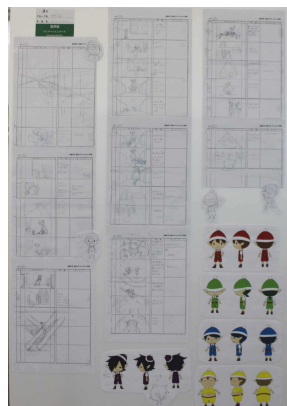


1年 和田歩美さんの作品  
(長野県 長野清泉女学院高校出身)



2年 八幡英理子さんの作品  
(千葉県立松戸高校出身)

### ■ アニメーションコース



2年 木村班の作品  
木村亮文さん (東京都 堀越高校出身)  
渡部秀一さん (福島県立葵高校出身)  
長津未来さん (東京都 武蔵野女子学院高校出身)  
津畑春香さん (栃木県 佐野日本大学高校出身)

### ■ ゲームコース



1年 田中美涼さんの作品  
(東京都 堀越高校出身)



2年 石坂博美さんの作品  
(富山県 富山第一高校出身)

# 「東京ゲームショウ2012」に出展

過去最多の来場者数（22万3,753人）を記録した「東京ゲームショウ2012」に、宝塚大学として初めてブースを出展しました。ビジネスデイ（9/20、21）、一般公開（9/22、23）の期間中、ブースはたくさんの来場者で賑わいました。学内に東京ゲームショウ実行委員会を組織し、出展内容の企画、準備、ソーシャルメディアを使った告知などを学生たちが行いました。ブースには、学生一人ひとりが企画・制作したiPadアプリを多数出展。ゲームアプリの説明を学生たちが行うなど、充実した4日間となりました。

ゲームコースの井上幸喜教授は、「他の大学や専門学校のブースは、学校そのものをPRしている印象がありますが、本学では、学生たちが自らの作品を会場に来たお客さんにきちんと説明できる、“実践の場”として捉えています」と、今回の出展の意図を話していました。



出展ブースの様子

ゲームコースでは、井上教授が社長を務めるコンテンツ企画開発会社「株式会社 JETMAN」（オフィスは学内に設置）と連携しています。学生が開発したアプリを販売するレーベル“Jet Game Lab”を設立し、すでに販売実績も挙げています。商品として通用するレベルを目指して学ぶとともに、開発者側の視点を得ることができます。

### 井上幸喜教授（ゲームコース）

iPhone や iPad、Android などのアプリは、完成形まで一人でできます。今は、“私はこういうゲームが作れます、企画を作れます”ということで、個々の作品や企画が、就職活動でアピールするためのツールになっています。



ゲームコースの参加学生



子どもたちに遊び方をレクチャー



学生作品「ぶたなげっと?」 iPhone アプリとして販売中。高いところが大好きなぶたを投げるゲームです。

© 2011 JETMAN inc. All rights reserved.

### 3キャンパスの学生が交流

新宿キャンパスの学生自治委員会が主催した「大阪研修旅行」が、9月23日（日）～26日（水）の日程で行われ、造形芸術学部のある宝塚キャンパス（兵庫県宝塚市）、看護学部のある梅田キャンパス（大阪府大阪市）の学生との初めての交流会が実現しました。

本学の創立 25 周年に合わせて行われた今回の交流会では、学生有志が宝塚キャンパス、梅田キャンパスを訪問。普段訪れる機会のないキャンパス内を、興味深そうに見学する姿が見られました。また、各学部の学生との合同交流会で親睦を深めたほか、25 周年記念「舟 PROJECT」（宝塚キャンパスを舞台に、学生と教職員一丸で“舟”を創るプロジェクト）の制作現場を見学するなど、創作意欲を高めることのできた研修旅行になりました。



25 周年記念「舟 PROJECT」の  
製作現場



大阪・梅田の看護学部を  
見学する学生たち



宝塚キャンパスの図書館も見学

### 東京デザイナーズウィーク 2012 に出展

東京青山・明治神宮外苑絵画館前にデザインとアートが集結するイベント「東京デザイナーズウィーク 2012」〔開催期間:30日(火)～11月5日(月)、以下TDW2012〕に、イラストレーションコースが出展することになりました。



美術系の学校が出展する「学校作品展」カテゴリーには、過去最高の国内外 47 校 57 チームが参加。

イラストレーションコースは、TDW2012 のテーマの中から“HOUSE”を選択。文明の進化を1本の樹に見立て、現在の暮らしを1つの巣で表現した作品「NEST」を出展。壁面には創作エコバッグやポスターなどを展示します。



## HOT TOPICS—④

### 【社会連携】

### 地域のイベントに参加

9月末から今月上旬の間に新宿区内で催された地域のイベントに、学生たちが参加しました。

高田馬場・戸塚地区で行われた「戸塚地域センターまつり」〔9月23日（日）〕には、似顔絵描きで参加。吹奏楽の演奏やフリーマーケット、模擬店、作品展示など、子どもから大人まで楽しめる企画が多数実施されたことから、老若男女問わず多くの方々が似顔絵コーナーを訪れ、大盛況となりました。

荒木町・舟町全体が会場となった「四谷大好き祭り 2012」〔10月6日（土）、7日（日）〕には、似顔絵描きのほか、オリジナル缶バッジ、歌舞伎町を舞台に製作したカードゲームなどを販売。学生たちは、カードゲームの登場人物をモチーフにした衣装を着用して接客するなど、イベントを楽しんでいました。

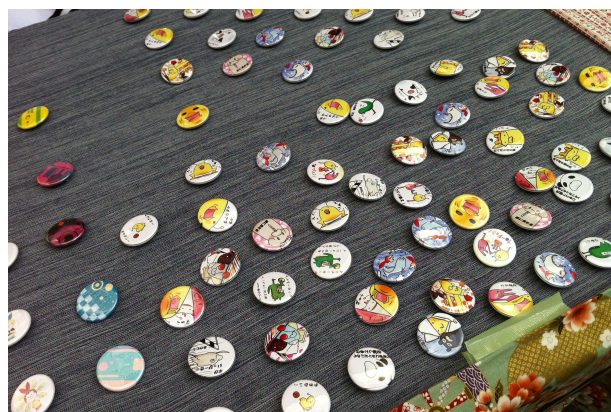
「神楽坂青空フェスタ」〔10月7日（日）〕には、今年5月に続いて似顔絵描きブースを出展。ブースには多くの人々が訪れ、スタッフ総出で来場者の似顔絵を描く場面も見られました。



「戸塚地域センターまつり」で作成した似顔絵(左)と似顔絵を描く学生たち



「四谷大好き祭り 2012」でカードゲームを販売した学生たちは、登場人物の衣装を着用



「四谷大好き祭り 2012」では、オリジナル缶バッジも販売



「神楽坂青空フェスタ」では、多くの人々が宝塚大学ブースを訪れました

### 清水さんが少年シリウスで連載デビュー

マンガコース卒業生の清水詩帆さん（科学技術学園高校出身）が、講談社のコミック雑誌「月刊少年シリウス」2013年1月号（11月26日発売）で連載デビューします（作品名：『2×BONE』、ペンネーム：清水幸詩郎）。本学の卒業生で、商業誌でのマンガの連載デビューは、清水さんが初めてです。

清水さんは、2010年に開催された「第16回少年シリウス新人賞」で佳作を授賞。以降、編集部をサポートなどにより、今回のデビューとなりました。

#### 『2×BONES』新連載告知

シリウス新人賞出身の気鋭がついに連載で登場！

闇の隙間に生まれ来る「MOUTH」より吐き出されるは「エクリプス」…。それに対するは鋼鉄よりも固い「骨格騎士」！人知を越えた力と対峙する時、少年は少女と出会う!!



月刊少年シリウスのサイトでの告知カット

Copyright © Kodansha Ltd. All rights reserved.

### 犬の服・グッズブランドのワッペンをデザイン

マンガコース2年生の八幡英理子さん（千葉県立松戸高校出身）が、シンガーソングライター・鈴木初音さんの犬用服・グッズブランド「はあみん♪」のオリジナルワッペンをデザインしました。

八幡さんは、今年5月に行われた「第1回ガリバー旅行記はがき絵コンクール」で特別賞を受賞しました。その際、コンクールの役員を務めていた鈴木さんが、八幡さんの絵を大変気に入ったことから、デザイン制作をオファー。八幡さんが、デザインしたワッペンの付いたバッグが発売されることになりました。

通販サイト URL : 「はあみん♪」

<http://hatsunet.ocnk.net/>

サイトの商品は鈴木さんがデザインしているほか、東日本大震災の被災地・南三陸の女性に縫製を担当してもらおうという形で、就労支援をしています。



(左) 八幡さんがデザインしたワッペン  
(右) ワッペンが付いた散歩用バッグ



### 就職セミナーを開催

後期の1回目となる就職セミナーを9月末に開催しました。前期に5回実施した3年生対象の就職セミナーでは、“就職活動の本番時期に向けて、準備期間に何をしておくべきか？”をテーマに、社会と業界を知るためのセミナーや、内定した4年生との情報交換会などを開催。知識と情報をインプットした上で、自身が具体的に何をを目指すのかを確定し、動き出せるような支援をしました。

後期からは、就職活動が本格化する3年生のスタートダッシュ強化を意識して、エントリーシート対策、SPI対策、面接・マナー対策、個別面談など、より実践的なサポートを行います。

1回目のセミナーでは、「ポートフォリオ制作実習」の授業を担当している中路真紀講師が、エントリーシートを書くための前準備として「自己経験の棚卸し」をテーマに講演しました。



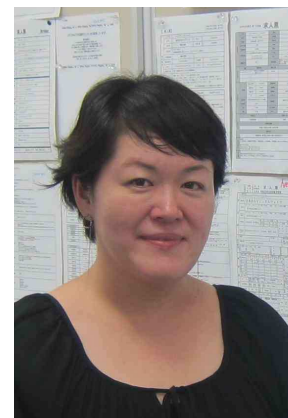
「ポートフォリオ制作実習」

#### 「大学生生活全体のデザインを」：名雪里美カウンセラー（就職支援室）

就職支援室では、各学年ごとにプログラムを組んでキャリア支援を行っています。3、4年次だけでなく、1、2年次から大学生生活全体のデザインを自分で立てることができるように、今年から1年生を対象としたセミナーも実施しました。作家を目指す学生も、企業で働きたい学生も“将来何をして食べていくのか、そのために必要なスキルは何か”という視点を持つと、学生生活の過ごし方が変わります。

たとえば、イラストのコンペに作品を応募する目標を大学の早い時期から設定したり、マンガ雑誌の賞に投稿するためのプランやイメージを立てておくと、通常の授業の課題に取り組む意識が変わります。また、第一線で活躍するクリエイターのレベルを知っておくと、自分に足りないスキルを客観的に把握することができます。

“就職のための将来設計”ではなく、“自分の人生のための将来設計”を考えることができる力、それを実現するためのスキルを磨く重要性について、学生たちに早い段階から気づいてもらえるよう、就職支援室としても支援をさらに強化していきたいと考えています。



キャリアカウンセラーの  
名雪さん



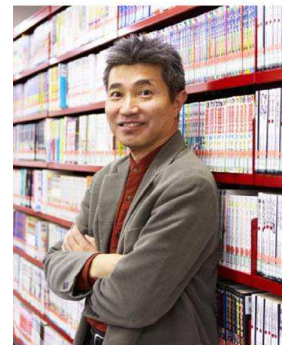
### 竹内教授 作・演出による公演

マンガコース竹内一郎教授の作・演出による『日本アニメ、夜明け前』(平成24年度芸術文化振興基金助成事業)の公演が、4日から7日まで新宿紀伊國屋ホール(紀伊國屋書店新宿本店4F)で行われました。公演は毎回満席となり、大好評の内に終了いたしました。

竹内一郎教授：

本作品は実話に基づいたフィクションです。ジャパニメーション(日本アニメ)創世期を舞台にしました。できる限りの資料を集め、何人ものアニメ関係者に取材しました。また、虫プロ、東映動画の両方の作品に深く関わり、手塚治虫氏が天才と呼ばれた月岡貞夫氏にも取材させていただきました。現場体験者の言葉は、書物に書かれたアニメ史とまったく異なっており私は感じられます。アニメの工夫や改良は、言語として表現しにくい性格を持っています。

非言語コミュニケーションの重要性を訴える私の眼には、「歴史とは、言葉になりにくいものはなかったことにしようとする性格を持っている」と映ります。(※公演パンフレットより一部引用)



竹内教授

### 吉田光彦講師の作品を大英博物館が所蔵

吉田光彦講師の作品「八百年の命(A Life of Eight Hundred Years)」が、イギリスの大英博物館に所蔵されることになりました。

同作品は10月中旬の展示替にて三菱商事日本ギャラリーに展示される予定です。(作品保護のため、10月から数ヶ月の間の展示になる予定)

詳細は大英博物館のホームページをご覧ください。

URL : [www.britishmuseum.org/](http://www.britishmuseum.org/)

#### Curator's comments

The subject is mysterious and intriguing: a beautiful young woman eats raw fish from a bowl, while behind her in the purple sky are traditional motifs such as a stylised crescent moon into which dives a golden carp; also bamboo canes and decorative streamers.

The painting is extremely finely done, particularly the facial features and hair of the young woman.



AN1234080001

© The Trustees of the British Museum

### 北見教授 絵画展

北見隆教授（イラストレーションコース）の絵画展「月の引力」が9月末から今月3日まで東武百貨店池袋店・美術画廊で開催されました。北見教授は1995年から同百貨店で絵画展を毎年開催しており、今年で18回を数えます。例年よりひと月半ほど早いスケジュールでの開催でしたが、青い鳥がテーマの作品など約40点が出品されました。北見教授の絵の長年のファンや、多くの一般客が画廊を訪れました。

#### <北見隆教授 プロフィール>

武蔵野美術大学商業デザイン科卒。イラストレーター。絵本『夢から醒めた夢』や『聖書物語』などの作品で知られる。廃材を利用して立体作品などを生み出すリサイクル・アートでも積極的に活動。受賞歴は「第13回サンリオ美術賞」、「ブラチスラバ絵本原画ビエンナーレ 金のリング賞」など。



### 城芽講師が個展を開催

城芽ハヤト講師の2年ぶりの個展「THIS HOT HEAVEN」が、9月24日から今月6日まで、ギャラリーハウス MAYA（東京都港区北青山）で開催されました。キャンバスボードに描かれた人物画の新作は20点以上。「ぼくは焦らず素直に人物を描き続け、目には見えない THIS HOT HEAVEN も映し込む、少しでもそんなものに近づきたいです」という城芽講師の想いが反映された展示となりました。

なお、今回の展示作品はギャラリーハウス MAYA のホームページに掲載されています。

<http://www.gallery-h-maya.com/artists/jomehayato/>



城芽ハヤト講師



「太鼓橋」 Taiko-bashi  
© Hayato Jome



# 授業紹介

## イラストレーション概論Ⅱ

〔受講学年：メディア・コンテンツ学科 2 年（必修選択）担当教員：北見隆教授〕

「イラストレーション概論Ⅱ」は、1960年代のポップアート以降の画家、イラストレーター、写真家、デザイナーなどの作品を中心に、プロジェクターやDVD等を用いて紹介、解説し、現代におけるイラストレーションの可能性を、様々なアート作品を通して模索していく授業です。

授業を通して、イラストレーションという狭義なカテゴリーにとらわれることなく、自由な発想、着想を身に付けることを目標としています。また、「詩とイラストレーションとの関係性」がサブテーマとして設定されており、「短歌による詩画集の作成」や「漫画による歌詞の表現」などの“詩”にこだわった課題つくもがみが与えられます。そのほか、物を擬人化する実習として付喪神を描くほか、アウトサイダーアート※1やヘンリー・ダーガー※2の作画法などを学びます。

※1 主流から外れた芸術活動の総称。美術に関する教育を受けていない独学者や障害者などが、既成概念にとらわれず自由に表現するものをいう。

※2 アメリカン・アウトサイダー・アートの代表的な作家の一人。

第2回の授業は、11月に開催される「東京デザイナーズウィーク」(5頁に関連記事)に出展する作品を製作。鳥の巣を模したオブジェに並べる無数の家を、紙で作りました。学生たちは、家ひとつひとつが宝塚大学を代表する作品になるということを意識しながら、集中して作業に取り組んでいました。



北見隆教授



実際の木で作成した土台（右）に、紙製のたくさんの家（左）を並べた巣（中央）を載せたオブジェを作成します

## 教員紹介

### 古瀬登准教授(アニメーションコース)

## アニメーションを学ぶ上での自立心

専門学校は2年制が多いと思いますが、2年間では技術を学んだだけでそのまま“卒業”となります。学生たちを指導していても感じますが、アニメーションを学ぶ上での自立、自立心というものは、ある程度の技術を学び終えてから生まれてくる気がします。ここでいう自立とは、自分の考えを持ち、技術を活かして作品に反映させるという「自立した作品づくり」ができることです。面白い作品が多く、急激に伸びる学生が多いのはやはり3年生です。社会に出るまでの猶予期間が専門学校に比べて長いことで、自分の立ち位置が分かってくるのではないのでしょうか。また、アニメだけでなく、東京メディア・コンテンツ学部を選んで入学してきた学生たちは、他の一般の大学に入った学生たちよりも目標がはっきりしており、しっかりした学生が多いと思います。



古瀬登准教授

アニメ制作のプロダクションに入ると、初めは動画マン（原画をつなげる一連の動きの作画）としての役割が主な仕事になります。一般の企業も同じですが、新人としての修行期間に耐えることが必要です。同じアニメーションコースの月岡教授ともよく話すことですが、動画マンとして修行を積み、作画や演出の仕事を通じて、作品に能動的に関われるようになったときに、初めてこの大学で学んだことが真に役立つと思います。現在1期生が社会人2年目ですので、5年後、10年後が楽しみです。

この業界は、世の中の景気の影響が少し遅れて反映されます。理由としては、アニメーションの制作期間が長いことが挙げられます。私は大学で教鞭を執り、かつ現在もアニメ制作に関わっていますが、今は一時の不況の影響が和らぎ、多少盛り返してきている気がします。

また、長年フリーの立場で仕事をしていると、以前と一緒に仕事をした演出の方からの依頼など、環境面も含め、相性の良い仲間です仕事をする機会が増えます。これは一本の映画を撮る際に、様々なジャンルのプロが集まって仕事することと似ています。学生たちは2年次からグループ制作を行います。長期間にわたりチームワークで仕事をする経験を積むことができるのも4年制の大学のメリットです。

私が若い頃は、絵を描いて仕事になる（食べていける）とは簡単に想像できない時代でした。アニメ制作も、フィルム撮影、セル動画の時代で、搬入作業など肉体労働としての仕事も多く、男社会でした。今の学生たちは、男性、女性を問わず、パソコンが1台あれば簡単に映像を作ることができる恵まれた環境にあります。作品を発表できる場もインターネット上にあるので、無限に広がっているチャンスをつかんで欲しいです。

#### <古瀬登准教授>

[担当科目] アニメスキルⅠ・Ⅱ、キーフレーム、動画技術Ⅰ・Ⅱ、アニメコンテンツ制作、卒業制作

1955年、東京生まれ。アニメーター。東京デザイナー学院グラフィックデザイン科卒業。

「スプーンおばさん」(1983)、「うる星やつら」(1984)、「エースをねらえ! 2」(1988)、「ルパン三世」TVスペシャル(1989)、「頭文字D」(1998)、「鉄腕アトム」(2001)、「ブラック・ジャック」(2005)等、多くの作品で作画監督及びキャラクターデザインを担当。



## 学生紹介

### イラストレーションコース 1年

富永真結さん(東京立正高校出身)

## 絵のタッチを究めていきたい

### — 学生生活について

入学して半年が経ちました。周りには明るい人が多く、思っていた以上に溶け込みやすい環境です。私の描いた絵を見て意見をくれる友達も増え、とても勉強になっています。また、軽音サークルに入ったことで先輩との交流が広がりました。同じイラストコースの先輩方から、今やっておかなければならないことや、これまでに苦労したことなど、学生生活や作品づくりの点で様々なアドバイスをもらっています。

選択授業では他のコースの学生とも仲良くなれる機会があるので、映画のシナリオの作り方やマンガのテクニックなど、私の作品づくりに取り入れられる要素はないかと刺激を受けています。



自身をイメージした作品を  
手にする富永さん

### —授業について

基礎となるデザインの授業は徹底しています。高校時代は美術部でしたが、本格的にやるデザインは初めての経験でした。何度も手直しを行い苦労しますが、完成した後は大きな達成感があります。現在は決まったデザインではなく、自由に発想を練り広げてアイデアを固め、作品を作るタイプの授業が特に好きです。自由に制作できる分、先生からのアドバイスで初めて気づかされることもたくさんあります。ストーリーを考えることも好きなので、今後の絵本制作の授業が楽しみです。

授業では難しい課題もありますが、絵を描いている間は楽しく夢中になれます。同時に、自分の好きな絵を描いていく上での挫折感や、好きなだけではやっていけないという厳しさや緊張感もあります。

### —これからの目標

昔はコミックイラストの要素が強い絵を描いていた時期もありましたが、このままでは多くの似たような作品の中で埋もれてしまうと思いました。自分を見つけ出し、表現するには、雑誌や広告の中で際立って見えるようなイラストを描きたいと考えるようになりました。そのために、自分のタッチを究めることが課題です。自分の絵だとわかるようなタッチや色遣いが必要であれば世の中に出ていけないと思います。そこを描き分けられるようになりたいです。また大学時代に個展を開くことも目標です。すでに友人と約束をしており、個展の開催に向けて二人で絵の準備を始めています。

### —高校生へ

大学でも絵を描きたいと思っているのであれば、自分の信念を曲げないで欲しいです。私は受験で一般の大学を勧められたこともありましたが、絵を描きたいという一心で志望は変えませんでした。今はやりがいのある充実した学生生活を送れています。あの時の判断は間違っていなかったと感じています。

## 学生紹介

### アニメーションコース 4年

#### 伊藤雅子さん(東京都立大泉桜高校出身)

## 子供向けのアニメを描き続ける

### — “アニメ”を選んだ理由

私は高校でデザイン美術系の科目を勉強していて、当時は雑誌のレイアウトや本の表紙のデザインに携わりたいと考えていました。アニメーションを専門的に学びたいと思ったきっかけは、高校2年生の時に目にした、あるアニメのオープニング映像です。その映像に衝撃を受け、作品の本編を借りて見たところ、作画も素晴らしくすぐにのめり込みました。“これは凄い”と感じたアニメに対するあの時の気持ちをずっと持ち続け、今に至っています。



伊藤雅子さん

### —就職活動について

就職活動はアニメ制作会社に絞って活動し、働きたいと思う会社は固まっています。就職活動を始めた頃は手探りの部分もありましたが、同じ志を持つ友人と情報交換し、就職支援室で相談に乗ってもらうことで、不安や緊張がほぐれました。また、授業では先生方からアニメ業界の話聞いていたので、動画マンとしての心構えも自然と身に付いたと思います。

基本的にアニメ制作会社は、ポートフォリオ（作品集）の提出、面接、実技の試験があり、なかでも最初の段階であるポートフォリオの提出はとても重要です。ポートフォリオに入れる作品は鉛筆画が多いのですが、会社によって制作しているアニメが異なるので、その会社の得意とする分野や画風（線の量など）について、あらかじめ知っておく必要があります。反省点としては、「授業の課題以外でもっと作品を描いておけば、自分の画力の無さに落ち込むことはなかったかもしれない」ということがあります。

### —将来について

アニメ制作会社では、まず動画マンとしての下積み期間があり、原画を担当するまでもある程度の年数が必要です。イメージすることはまだ難しいですが、将来はキャラクターデザイン、作画監督、演出の仕事に興味があります。演出家として、アニメのオープニング、エンディングなども手がけてみたいです。

私は大学に入ってからアニメの専門的な勉強をスタートしました。これまでを振り返ると、自分で描いた絵がキャラクターとして動く楽しさが、知識や技術の難しさよりも上回っていたと思います。弟が小さい頃にアニメを熱心に見ていた姿をよく思い出します。そんな風に多くの子どもたちに楽しんでもらえるようなアニメを作りたいです。そして、職業として絵をずっと描いていきたいです。描きたいと思ったときに描かないと、気持ちも逃げていってしまうので、これからもとにかく描き続けていきます。



伊藤さん（3年生時）のグループ制作作品「ぼくのみち」



## 今後の予定

### ■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時：10月27日（土）、11月10日（土） 13：00～16：30

内 容：学校紹介、入試説明、コース紹介、相談コーナー、作品展示、アプリ体験コーナーなど

※オープンキャンパス特設サイトを公開中

<http://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/opencampus/>

### ■ 「PEACE CARD 2012」東京巡回展 <監修：城芽ハヤト講師>

日 時：10月15日（月）～11月2日（金）

土日を除く平日 9：30～18：00

※大学入館の際は、受付で「ピースカード展」とお問い合わせください。

場 所：宝塚大学 新宿キャンパス 8F 809 研究室

内 容：「PEACE CARD 2012」は、平和への想いを寄せ合う絵はがき“ピースカード”を一堂に集めた展覧会です。9～10月に山梨・小淵沢、大阪、東京、名古屋の順で巡回し、15日から本校で展示をしています。これまでに展示したカードに加えて、イラストレーションコースの学生のカードも合わせて展示します。



### ■ 「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム2012」の『みるっく作品展』への出展

期 間：11月9日（金）～21日（水）

〔イベントは10月26日（金）～11月21日（水）〕

会 場：ギャラリー大ガード みるっく（新宿区歌舞伎町）

内 容：新宿のまちのイベントをいっぱい詰め込み、新宿のまちの魅力を集中的・連続的に発信するイベント「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム2012」。本学は『みるっく作品展』に学生作品を出展します。なお、「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム2012」のロゴマークは、昨年本学部がデザインしたものです。

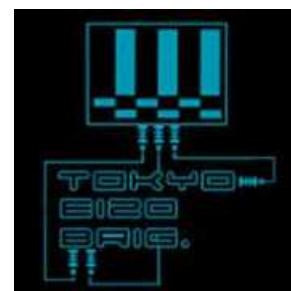


### ■ 東京映像旅団「第6回上映会：screening 2012」

期 間：11月9日（金）～10日（土）

会 場：UPLINK FACTORY（渋谷区宇田川町）

内 容：芦谷耕平専任講師が参加する「東京映像旅団」（日本大学芸術学部映画学科OBにより設立された上映団体）の作品上映会。ビデオアート、アートドキュメンタリー、アートアニメーションなど、様々な作家の作品を上映します。



# 宝塚大学

www.takara-univ.ac.jp

## 東京 新宿キャンパス

東京メディア・コンテンツ学部 | 大学院

〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号

TEL.03-3367-3411 FAX.03-3367-6761

[E-mail] tokyo@takara-univ.ac.jp



## ■ 周辺マップ



### <宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問い合わせ>

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室

担当: 金澤、山本 TEL: 03-3367-3411

### <ご掲載・写真データ等に関するお問合せ>

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社

担当: 江頭、高橋 TEL: 03-3571-5228